

会 議 議 事 録

会 議 名	令和元年度 第1回 学校関係者評価委員会	専門学校 東京工科自動車大学校
開催日時	令和元年7月10日（水） 18 時 ～ 20 時	
会 場	専門学校東京工科自動車大学校 123教室	
参 加 者	委員 (敬称略)	7名 (出席:6名)浅古純一・田中広美・田中洋子・吉本敏久・嶋田章二 沼田勇 (欠席:1名)鈴木賢司
	事務局	3名 山口泰之・澁谷健・市川隆由
会 議 録	<p>1. 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催に向けて校長の山口より「職業実践専門課程」の認定条件(以下①～⑤)を中心とした説明があった。 <ul style="list-style-type: none"> ①企業等が参画する「教育課程編成委員会」を設置していること。 ②企業等と連携して「演習・実習等の授業」を実施していること。 ③企業等と連携して「教員研修」を実施していること。 ④企業等が参画して「学校評価」を実施していること。 ⑤学校のカリキュラムや教職員等について HP で情報提供していること。 ・続いて学園の近況について、以下の報告があった。 <ul style="list-style-type: none"> ①本年は学園創立 50 周年を迎える。 ②1 級自動車整備科卒業生全員が 1 級自動車整備士の国家試験に合格した。 <p>2. 委員会成立の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より委員会メンバーの交代について説明を行い、令和元年度の委員および事務局メンバーについて確認がなされ、本委員会の成立が承認された。 <p>3. 学校関係者評価委員および事務局メンバーの確認と議長選出</p> <p>本委員会の成立を受け浅古委員が委員長として選任され、各委員から自己紹介が行われた。</p> <p>4. 議事</p> <p>(1)前回議事録確認(澁谷)</p> <p>澁谷より前回議事に関して説明がなされ、各委員からの承認を受けた。</p> <p>(2)平成 30 年度自己評価報告の評価結果について(山口)</p> <p>山口より評価結果に関する説明と7月末公開予定であることが報告され、各委員からの承認を受けた。</p> <p>(3)平成 30 年度実績および 2019 年度入学者報告(澁谷)</p>	

澁谷より以下の実績報告があった。

①教職員研修の実施状況

②就職実績

8 月末 100%を計画し同月実績として 94%で推移、結果的に 3 月末 100%を達成した。これはエンジンメンテナンス科でのレース関連希望者がいたことにも起因するが、結果的に全員の就職が確定している。

③資格取得

1 級整備士は 1 級科卒業生全員が受験し、筆記・口述ともに 100%合格を達成した。

2 級は、ガソリン・ジーゼル共に若干の不合格者が発生し全体で 97.5%という結果であった。

④学生募集

各科毎の入学状況と全体での入学実績について報告がなされた。

留学生は入国審査が厳しくなった影響もあり減少傾向、総じて昨年を下回る結果となった。

オープンキャンパスについては前半勝負を意識して、実施回毎の反省会と改善点の洗い出しに取り組んでいる。

⑤各委員からの意見ならびに質疑応答

・ディーラーに比べ専業には人が集まらない事情から人員不足による廃業もある。

・就職状況について整備職の比率はどのくらいか？

⇒全体的にディーラー希望が多い。留学生には一般整備工場への就職実績もある。

・町工場には人が集まらず採用に工夫を要す。中学生からの職場体験がポイントとなるケースもあり早期からの意識醸成が大切。アスリート採用等、採用側が門戸を広げることも大切。

・日本一の自動車学校を目標に掲げ 100%合格は凄いこと。募集の強みとなるのでは。

(4)2019 年度事業計画について(山口)

①学生募集の課題

留学生は 30 万人計画横ばいで推移している。概して自動車希望者は減少傾向にあり日本人希望者の入学促進を図ることが重要である。

人物重視による AO エントリーが 6 月より開始されている。早期希望者は意識が高く、イベント等でも集客目標を掲げ 8 月の早期出願に向けて取り組んでいる。

②留学生課題

競合他校による留学生へのアプローチが増しており、工夫を凝らした対処が必要。

留学生の在籍比率は高まっており、今後は現状比率を維持しつつ日本人学生の増員を図ることが課題である。

③教務課題

年間 5%以内の退学率を目標としているが、昨年度は約 8%と目標値超過となった。

これには留学生の入学以前のアルバイト過多(資格外活動時間制限オーバー)によるビザ更新不許可等による帰国(退学)といった結果が影響している。

対処としてアルバイト先のチェック等、個別指導を強めている。

また指導記録の管理や学生の意欲低減、授業カルテの数値から学生の理解度を考察し、退学に繋がる予兆を見逃さない取組みが重要である。

④就職内定率

8月末100%達成を目標に、現在は75%程度で推移している。

留学生は個別指導を強化している。また、昨年同様日本人学生でも個人の意向(レース関連等の特殊事情)から内定時期が先になりそうな状況もある。

(5)意見交換(各委員からの意見)

- ・社の取り組みとして小学生を対象に職場体験(日常点検レベルで3日間3セット)に取り組んでいるが、今後整備に興味を持つ人材が出てきて欲しい。
- ・学生増が就職に繋がることから、社としても積極的に関わっていききたい。入学者減少は企業にとっても影響があるので学生募集に向けて協力していきたい。
- ・若者に車に興味を持ってもらうイベント(支部でマイカー点検整備2箇所4日間)を実施したところ、アンケートから半分近くが免許を所持しておらず、興味を持つきっかけ作りとして取り組んでいる。入学増は就職増に繋がり業界の改善にも寄与するものである。
- ・クラスの雰囲気が高く学生同士のコミュニティーも良好である様子が伺える。
- ・毎年実施の昭和地区祭は子どもたちが楽しみにしているイベント。人が多く集まる機会なので、その場を利用して欲しい。子供の頃の経験や話を聞くことは大切なこと。地域でも協力していきたい。
- ・学生増を図るには入学までのプロセスや体験、意思決定の時期が大切。在校生の入学に至るプロセスを調査・分析することで学生増に繋がる要因が探れるのではなかろうか。

5. その他

- ・年間スケジュールの紹介
- ・来年4月から始まる高等教育無償化の認定に向けて申請手続中である。
- ・次回日程 11月1日(金)

6. 事務局連絡

7. 閉会

以上

